

# 新司祭・ 新執事誕生!!

去る3月21日(木)に、神戸聖ミカエル大聖堂において司祭・執事按手式が小林尚明主教司式のもと執り行われました。神戸教区に新司祭、新執事が誕生しました。



## ご挨拶・司祭までの歩み 司祭デオヌシオ 遠藤 雅巳

本年3月21日神戸聖ミカエル大聖堂で、小林尚明主教から按手を受け、司祭に叙任されました。マニラの大聖堂で、執事按手をうけてから実に30年以上の月日が経っていました。私の年齢も世間並み

に言えば退職年齢で、聖公会の退職規定でも後5年を残すだけです。

実は私は、神学院入学も30歳を過ぎてからで、それまでは内外の大学院で学び、大学教員を生業としておりました。ある切っ掛けで聖職志願しましたが、それを受け止めて下さったのは、東京教区の目白聖公会の方々でした。聖職候補生として東京聖三一教会に勤務して以来、日本でも海外にいても故竹内謙太郎司祭のご指導を受けました。



私は、フィリピン聖公会のお招きで、協力宣教師として東京教区から同国に派遣され、その後ジュネーブとローマで学んだ期間を省き、15年間同国で働きました。その前

半は主に北部ルソン山岳地帯の教会で、後半はケソソ市の聖公会の大学で教員として働き、様々な宣教活動の経験と洞察の機会を与えられました。私は司祭への招きのことよりも、専門職としての執事として働くことが自分の道であると思いはじめました。2001年に東京教区の命により帰国、その年に神戸国際大学に招聘され、執事として主日勤務をしながら18年経ちました。

危機状態のルソン山岳地帯でも、司祭の存在とユーカリスト(聖餐式)の大切さを痛感させられました。神戸教区でも司祭の不足から聖餐式が毎主日執行できない教会があることを知らされました。結局これが私への究極の召命であったと思います。

(神戸聖ヘアロ教会副牧師)

## 執事職に召されて 執事バルナバ 永野 拓也

まず始めに、執事按手を迎えるにあたって、皆さまがお祈り、お支えてくださったことに感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

私は執事職に按手された今、神様の導きを改めて感じ

ています。私は神戸で育ち、京都・群馬・広島と様々な所で生活を送ってきました。そして、その時々には様々な経験をすることとなりました。当然、嬉しいこともあれば、悲しいこともありました。今振り返ると、その時々には教会の皆さまの支えがありました。祈って頂きました。そのような事柄の一つ一つが重なり合っていたのだと感じています。ですから、聖職按手ということが深く胸に刻み込まれています。



「執事に按手されて、何か変わりましたか。」そのような質問を受けることが多々あります。いつもうまく答えられません。あえて文字にするとすれば「私自身は変わりませんが、ある部分では変わりました。」という答えになると思います。何故なら、執事職に召されても、私はこれまで通りの永野拓也です。知らないことだらけです。しかし、確かに変わったことがありません。それは、聖体を持つていくことができるようになったことです。ご自宅と一緒に祈りをして、聖体に与る方の姿を見た時、イエスさまを中心とした交わりの豊かさを改めて実感します。そのような働きが与えられたのだと思うと、身が引き締まります。

私は「執事」としての働きをしつかり全うしたいと思っています。それは、皆様の祈りに支えられ、神様から与えられた尊い職務だと考えているからです。だからこそ、日々の出会いや出来事に誠実に向き合っていきたいと思っています。そして、そのことを通して、福音を宣べ伝えることに携わっていただける者だと思います。まだまだ未熟な者ですので、これからもご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。そして、お祈りのうちに覚えていただければ幸いです。

(広島復活教会牧師補)